滋賀県立
聴覚障害者センターだより

—108号—
発行日／令和5年1月10日
発行所／草津市大路2丁目11-33
TEL 077-561-6111
FAX 077-565-6101
HP https://shigajou.or.jp

聴覚障害者生活訓練事業「いきいき情報教室」
運動会のような防災学習会を実施

障害物競争　スタート！

1.2.3.4.5…ペットボトルの弾力を使って

まるで運動会のように？

11／13（日）に聴覚障害者センターにて「～まるで運動会のように～災害時に大切な動きを楽しく学ぼう」をテーマに滋賀県聴覚障害者災害地域救援本部と共催の防災学習会を開催しました。今年度もNPO法人しがいち防災研究所（岩佐卓實氏代表）に協力をいただきました。

参加者は関係者22名でした。高齢の方もいらっしゃるので激しい運動会はできませんが、「まるで運動会のよう」なゆるやかな障害物競争を行いました。災害現場では比較的煙の少ない床近くに姿勢を落として這（は）って移動する、障害物のすきまをくぐるというような動きも必要になってきます。そのような動きを少し急いで体験してみようというのがねらいでした。

実践と競争

当日の流れは、第一部が「ペットボトルで心肺蘇生の練習」と「ロープワーク」を各自で実践。第二部では4人ずつのグループに分かれてタイムを競って障害物競争をしました。競争の内容は、手袋とヘルメットを装着したあと、煙に見立てた白いシーツの下をくぐり抜け、2本のロープをつないで向こう側に待っている仲間（被災者に見立てています）に届けます。仲間（被災者）は自分の体にロープを巻き結び、できたら全員でゴールします。結果は、意外なグループが一等になったり、楽しく笑いながらも、大切な動きを学びました。

みんなで振り返り

最後は振り返りと意見交換をしました。近年は異常気象ともいえる記録的短時間大雨や台風の被害が起きています。今年はアンダーパス（掘り下げ式になっている道路）での死亡事故も起きました。「どこにアンダーパスがありますか」「外出先で誰にも情報がもらえない、助けてもらえないときどうしますか」などの質問が出されました。講師からは「このような学習会をきっかけに、自分の生活する場所のどこにアンダーパスがあるか平時に確認しておき、大雨のときにはその場所を避ける等、自分でできる準備も考えておきましょう」というアドバイスをいただきました。

この日に感じたことや疑問、課題は皆さんが所属団体に持ち帰って伝達し、自分でできること、近所の人たちと協力関係を作ること、団体や行政にしてもらう必要のあることなどを話し合って整理し、いざというときに備えていただきたいと思いました。アンケートからも「継続した実施が必要」「繰り返し学習したい」との声がありましたので、防災学習会は学んで（体験して）、自分たちで考えて、再び学習会に活かすというサイクルで継続していくことが大事だと感じました。

もやい結びと巻き結びを繰り返し練習

ロープを使ったテント張りと洗濯干し

聴覚障害児及び保護者サポート事業
手話で楽しむクリスマス会

12月4日に聴覚障害者センターで「手話で楽しむクリスマス会」を開催しました。集まったのは5家族、お子さん7名でした。はじめは手遊び歌で子どもたちの注意を集めます。今年はスタッフが事前に仕込みをしていて、「上向いて下向いて…サンタさんはどこ?」「トナカイさんはどこ?」。全員が「あっち!」「こっち!」と一斉に指さしました。指差した先は壁に貼られたサンタさんとトナカイさんでした。

つづいて「手作り没頭タイム」に入ります。今年は毛糸でつくるクリスマスツリーです。デコレーションの立体シールを何種類か準備しました。文字通り没頭して作る様子や、親子の密な相談コミュニケーションも見られました。

作り終えたら再び手あそび歌で切り替えて、手話のついた絵本タイムです。対象年齢より大きい3年生、4年生のお子さんは手話をすっかり真似て表していました。

そのうちにシャンシャンと音が聞こえてサンタさんの登場です。サンタさんが声と指文字でお子さんたち一人ずつ名前を呼びます。前に出てサンタさんからプレゼントを受け、思わずニッコリと後ろのパパ・ママを振り返った笑顔がなんとも幸せそうでした。

手話で楽しむクリスマス会ですが、お子さんたちは人工内耳か補聴器をつけて上手に会話をしてくれます。このサポート事業では、声にプラスして手話も覚えて、100%わかるコミュニケーションに役立ててほしいなと思っています。保護者にもご本人にも、いつの日か「手話があってよかった」と思ってもらえるように。

大きなもみの木に
みんなが作ったツリーの
飾りを集めました

トナカイさんはどこにいる？
あっち！

手話指導者養成講座が開講される
～2025年国スポ・障スポにむけて、手話指導者を増やそう～

2015年滋賀県で開催される第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会における手話ボランティアの養成を担う人材を育成するために、11月19日（土）より6回にわたる手話指導者養成講座が開講されました。昨年度に引き続き開講し、今年度も20名の申込みがあり、来年3月まで実施します。

手話奉仕員養成テキストの実技指導（入門・基礎過程）に必要な「知識・技術」を学んでもらい。その養成講座の講師は、隣県福井県からきこえない講師ときこえる講師を派遣してもらい、1回5時間を5回学びます。手話講師に必要な心構えや指導方法を学んで、一人でも多く講師が増えていくことを期待したいと思います。

いきいき情報教室「地域サロンって、なあに??」
～活発な意見交換がなされました～

11月10日（木）午前、明日都浜大津にある大津市ふれあいプラザ大会議室で、いきいき情報教室「地域サロンって、なあに??」を開催しました。参加者は9名でした。

2年前、実施した滋賀県における高齢の聴覚障害者のニーズ調査の結果を通して、地域にきこえない人・きこえにくい人たちが集まるサロンが必要ということから、「地域サロンってどんなところ?何するの?」のテーマで、センターの中西所長よりミニ講義をしました。

そのあと、参加者同士で「地域サロン」について、意見交換をしました。「同じ仲間が集まる場所があったらいい」「交通手段が不便。送迎サービスがあったらありがたい」「伴侶がいなくなったら、家事が大変。今のうちにいろんなことを学びたい」など、活発な意見が出されていました。今後も大津市だけでなく、滋賀県内の各地域にいる高齢の聴覚障害者の生の声を聞く機会をどんどん増やさないと行けないと改めて感じた情報教室でした。

情報教室の様子

『頸肩腕検診』を実施しました

今年も10月27日（木）・28日（金）に、キラリエ草津にて『手話通訳者・要約筆記者の健康管理事業』として検診を実施しました。この検診は、聴覚障害者の社会参加を促進する意思疎通支援者派遣事業の担い手である登録手話通訳者・要約筆記者が、健康に活動を続けられるよう毎年実施しているものです。

検診は通常の職場で行う定期健康診断ではなく、上肢を使う作業の職種を対象にして行われる特殊検診です。まず一次検診として、調査票を利用して二次検診を受ける必要があるか否かのスクリーニングを行います。その結果、必要と判断された方は二次検診である頸肩腕検診を受診します。検診内容は問診・検査・診察で、検査は握力・つまみ力・牽引力やタッピング・振動感覚等があります。

今回の検診結果は受診者個人へ送付されると共に、来年４月開催予定の健康管理講習会で総括した内容を共有し、健康問題についての学習に役立てます。

登録者がいきいきと活動できるよう、今後も検診と学習を継続していきます。

とちぎ国スポ・障スポを視察しました

2025年わたSHIGA 輝く国スポ・障スポに向けて

第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」は、10月29日～31日の３日間開催されました。滋賀県では、２０２５年の開催を控え、先催県への視察を行いました。手話・要約筆記ボランティア養成を担う私たちも視察員として栃木県を訪問しました。

視察のポイントは？

手話・要約筆記ボランティアの活躍を観察することです。栃木県では、手話のできるボランティアは４００人以上、手書き要約筆記ボランティアは１００人以上、パソコン要約筆記ボランティアは40人養成されました。大勢のボランティアがどのように活動されるのか、滋賀県でのボランティア養成に役立つ情報を探しに行きました。

ボランティアの様子は？

①開会式　メインスタジアム

メインスタジアムでは、開会式が大型スクリーンに映し出される会場の様子や、来賓のあいさつにあわせて手話通訳と要約筆記が写し出されます。（開会式の情報保障は、ボランティアの仕事ではありません）観客席には、「情報保障席」が１００席ほど設けられ、ヒアリングループ席（補聴器の貸し出しあり）や、手話通訳者と要約筆記者が前方に待機し、放送と同時に、手話と文字で情報を伝達し、対面での細やかな情報保障も確保されていました。

②バレーボール競技会場

バレーボール会場は、聴覚障害者のみの競技であり、全国からたくさんの選手・観客が来られます。特別に設けられた、手話通訳撮影ブースでは、カメラに向かって手話ボランティアが通訳を行い、パソコン要約筆記ボランティアのブースでは、チームを組んだパソコン要約筆記ボランティアが活躍していました。体育館内に４か所設けられた中型モニターには、手話と文字が二分割ではっきり映し出されていました。

今後の予定

ただいま、ボランティア養成テキストを作成中です。聴覚障害の基礎知識や競技会場で使われる手話や筆談のポイントなど、ボランティアが知っておくべき内容などを検討しています。

２０２３年には、いよいよボランティアの受付が始まります。手話や要約筆記をこれから学びたい方、これまで学んできた方など多くのボランティア申し込みを期待しています。

メインスタジアムの情報保障席

バレーボール会場の観客席
モニターに文字と手話が映し出されます

登録要約筆記者研修会　開催

10 月 23 日（日）聴覚障害者センター研修室にて、今年度２回目の登録要約筆記者研修会を開催しました。テーマは「難聴者・中途失聴者の心理、要約筆記者のあり方」。講師は和歌山県から田中三津子さんにお越しいただき、登録要約筆記者として、また手話通訳士の資格もお持ちで専任通訳者の経験もあり、豊富な経験談も交えてお話いただきました。難聴や中途失聴の障害とは、また要約筆記者としての対人援助の視点の大切さ、そして現場を想定したグループワークでの学習を行いました。和歌山県ならではの派遣現場の興味深い話（滋賀県ではなかなか経験できない柿農家さんの話等）や、交流歴の長い難聴者との出会いや活動について、講師の面白い話に聞き入ってあっという間の研修でした。もう一度講師の話を聞きたいと参加者からも大変好評で、またお越しいただく機会を設けられればと思います。

センター行事予定表（1月～3月）

1月		2月		3月	
		1	手話通訳Ⅰ	1	手話通訳Ⅰ
		4	登録手話要約研修	4	手話通訳1到達度試験
		7	手話通訳Ⅰ　要約筆記試験対策		
10	手話通訳Ⅰ	8	手話通訳Ⅰ　電話リレーサービス学習会	10	要約筆記者養成
11	手話通訳Ⅰ	11	手話トレーニング	11	手話通訳Ⅰ
13	要約筆記試験対策				
14	手話指導者養成	14	手話通訳Ⅰ		
		15	手話通訳Ⅰ		
17	手話通訳Ⅰ				
18	手話通訳Ⅰ	18	手話指導者養成	18	手話指導者養成　きこえの相談
		19	全国統一要約筆記者認定試験		
21	要約筆記者養成・修了式	21	手話通訳Ⅰ		
		22	手話通訳Ⅰ		
24	手話通訳Ⅰ				
25	手話通訳Ⅰ	25	手話トレーニング　きこえの相談	25	法人評議員会　青年講座
26	要約筆記試験対策				
28	きこえの相談（米原）	28	手話通訳Ⅰ		
29	国スポ・障スポ啓発セミナー				

手話通訳Ⅰ昼コース　水曜日、夜コース　火曜日　　手話通訳Ⅰ
予定は変更になる場合があります。　　手話通訳Ⅰ

ありがとうございます

米原市の安田稔さんより素敵な写真をいただきました。センター内にて写真を飾って安らいでほしいと話してくださいました。センターに飾っていますので、ぜひ観にきてください。心より感謝申し上げます。

タツノオトシゴ

ラジオ体操を真面目に行うこと１ヶ月。朝、おやつどき、夜の一日３回、スタンプを押せるかわいいアプリにも励まされて続いています。誰もが知っているこの体操、なんとも理にかなった動きの連続で、基礎代謝の向上から、肩こりや便秘解消にまで効果があるようです。たった３分ほどですが、からだもほかほかしてきます。

さらに「ラジオ体操の伴奏をピアノで弾いてみたい。」との無茶な考えも湧いてきました。

まずは、ピアノのほこりをはらって・・・どこまで広がるか、ラジオ体操。　（T・K）